



## 約束

愛する人が突然言った五年先の約束、劇の中のお話だったことが突然現実に……

藤沢周平の江戸の町人情小説に取材した短編戯曲

人物

薫子 大学四年  
倉橋 大学四年  
山本 大学一年

或る大学の中の倉庫のような殺風景な部屋。

薫子と山本が芝居の台本を手に劇の稽古をしており、舞台の隅に演出の倉橋がこれも台本を手に、椅子に座っている。

劇は藤沢修平原作の「約束」を元にしたもので時代劇。薫子が江戸の貧しい町娘、蝶子、山本が職人の幸助の役で、蝶子が幸助の仕事先に会いにきたところ。

ただし、薫子も山本も普通の大学生のラフな服装のまま。情感たっぷりな熱演の薫子に対して、山本の演技は新人らしく、どこかぎこちないが、それは彼らの演劇経験の差で仕方がないのかもしれない。山本のせりふが時々どもって聞こえるのは、彼が少し興奮しているせいでもある。

倉橋 (山本の傍に来て) 幸助つてのは江戸の貧しい見習職人だ。

山本 職人って何か作る人ですか。

倉橋 そうだな。職人だもんな。

山本 何を作るんです。

倉橋 そんな事はどうでもいい。見習職人だから住み込みなんだ。そこへ幼なじみのお蝶が訪ねてくる。劇の最初の場面だ。そこから行ってみようか。

山本 (緊張気味に台本と薫子を見比べて) 「どうかしたのかい」。

問

薫子 君よ。もう一度、次のセリフ。

山本 あ、すみません。 「何か話してもあるのかい」。

薫子 「ごめんね」。

山本 いえ、いいです。

薫子 これはセリフ。「ごめんね」。

山本 「」

薫子 「不意に尋ねてきたりしてごめんね」。

山本 「そんなことはいいさ。何か話があるんだらう」。

薫子 「ええ、(うつむいて) 深川に越すの」。

山本 「深川に いったい」。

薫子 「明日」。

山本 「深川のどこだい」。

薫子 「寺裏よ」。

山本 「寺裏？。ああ、・・・ああ、・・・」（台本の字が読めない）

倉橋が後ろから大きな声で「桶屋町」と声をかける。

山本 「桶屋町か、お寺がたくさんあるあたりだな」。

薫子 君、桶の字も読めないの。

山本 すみません。

薫子 それで、よくうちの学校入れたわね。

倉橋 そんなことはいいいよ。次。山本。

山本 「そうか、引越すのか、やっぱりお父つつあんの商売、具合が悪いのかい」。

薫子 （驚いて山本の顔を見る）

山本 「何、借金を抱えているって聞いたんで心配してたんだ」。

薫子 （突然大きな声で）君に心配なんかしてもらわなくてもいいわよ。

山本 （驚いて）え、！。

倉橋 薫子、お前、何を言ってたんだ。まじめにやれよ。

薫子 あ、ごめん。「そう、引越したら私奉公に出るの」。

山本 （薫子の顔を見て小さな声で）お父さんの商売、うまくいってないんですか。

薫子 え、

倉橋 あ。二人とも、何言ってるの。ちゃんとセリフを言ってくださいよ。

薫子が怒ったように黙り込む。山本がばつが悪そうに下を向く。

倉橋 ちょっと、休憩しようか。

山本 でも、ぼくももう少ししたらバイトに行かないと。

薫子 いいわ。もう少し、この場だけやっちゃいましょう。

山本 じゃあ、「引越したら、私奉公にでるの」。次、山本！

山本 「どこだい」。

薫子 「仲町。汐見屋という料理屋」。

山本 「仲町、門前仲町っていやあ、おめえ」。

薫子 「心配しないで、変な店じゃないんだから」。

山本が疑わしそくに薫子の顔を見る。薫子が怒って。

薫子 何、変な目で見てるのよ。私が変な店に出てると思ってるの。

山本 いいえ、そんなこと。

薫子 もう、やってられないわよ。何とかかないの。その変な目でみるの。私とあ

なたは恋人役なのよ。私、君とは出来ないわ。

倉橋 薫子、何を言い出すんだよ。

黙り込む山本と薫子。倉橋が椅子から立ち上がって出てくる。

倉橋 (山本に) おい、今日はもういいよ。バイトだろ。

山本 ええ、なんか。薫子さんとは無理みたいだし。もういいですか。

山本が出ていく。

薫子 なんて、あんなのが相手なの。もう少しましなのいないの。

山本 仕方ないだろ。二人しかいないんだから。うちの劇団。

薫子 どうすんのよ。公演まで一カ月なのよ。誰か替わり捜してよ。

山本 あいつでいくしかないだろ。

薫子 (横を向いて)。

山本 あいつは新人だしいいんだよ。でもお前は最後の公演だろ。きちんと決めろよな。

薫子 わかってるわよ。

倉橋 「それなら、いいじゃねえか」。

薫子 いいことない。

倉橋 幸助のセリフだよ。俺がやってやるからいつてみるよ。「それなら、いいじゃねえか」

薫子 「それに。私は下働きの女中で働くだけなんだから」

倉橋 「俺だってお前をそんな女とは思ってやしねえぜ」

薫子 「それじゃあ、私、もう帰らないと」。

倉橋 「そうか、帰るのか、身体に気をつけてな。無理するなよ」。

薫子 「さよなら」(後ろを向いて足早に去ろうとする)

倉橋 薫子！

薫子 (振り返り) お蝶でしょ。

倉橋 悪い。「お蝶。おめえ、いつだったか俺に言ったよな。大きくなったら俺のお嫁さんになるって」。

薫子 「え、」

倉橋 「あれは、いつだったか、おめえの家の裏の神社で遊んでいる時、不意にお前は俺の顔を見てすっかりそういつたぜ。」

薫子 (倉橋の顔を見る)

倉橋 「お蝶。お蝶、五年たったら二人で会おう」

薫子 (顔を見て、うなづく)

倉橋 「今は、俺も奉公しているし、それに深川は遠いから会いにいけない。だが五年たてば年季があけるんだ。そしたら会おう。いいか忘れるんじゃない。五年後のこの日だ」。

薫子 「どこぞ」。

倉橋 「小名木川の万年橋だ。あそこならちょうど」と深川の真ん中だ、橋の上で

会うことにしよう」。

薫子 「いいわ。きつと、私、待ってるわ」。

倉橋 「二人だけの秘密だ。忘れるんじゃないぜ」。

しばらく見詰め合った後、薫子は舞台中央に帰ってくる。

薫子 何だか女系図ね。金色夜叉ね。

倉橋 そうさ、たまにはいいだろこんなのも。

薫子 (しなを作って) 「この世の名残り、夜も名残り」

倉橋 「死に行く身をたとふれば」

薫子 やめてよ。あわせないですよ。

倉橋 前から思ってたんが、お前、案外古いタイプなんじゃないのか。

薫子 わからないけど。でも、どうして、こんなの選んだのよ。

倉橋 これは、藤沢周平だけ。はやってるじゃないか。「たそがれ清兵衛」。

薫子 でも、大学じゃ受けないわよ。こんなの。

倉橋 受けるよ。今は癒し系だろ。

薫子 それで、このお蝶さんは五年も待ってるわけ。恋人の年季が明けるのを。

倉橋 そうさ。お互い、辛抱してさ。

薫子 わたしなんかとても辛抱できない。

倉橋 でも、その間に男のほうはしっかり働いて年季があけるんだが、お蝶のほうは

お父つつあんの借金のために身を売っちまうんだ。

薫子 じゃあ、五年たってもお蝶のほうは会いにいけないじゃない。

倉橋 でもお蝶は全てを話すために行くんだ。会ってさよならをいうために行くんだ。

薫子 約束だけは果たすのね。でもそれが二人の最後。

倉橋 ところが、幸助は次の日の朝、もう一度、お蝶の家に行くんだよ。

薫子 あら、まだあるの。

倉橋 「お蝶。夕べはおめえ、逃げるように帰ったが俺の話はまだ終わってねえぜ」。

薫子 (あわてて台本を見て) 「え、話ならもう終わったわ。もう二度と会わないって」。

倉橋 「いや、まだ終っちゃいなえ。言ったらう。おいら何があってもおめえを俺の

嫁にするって」。

薫子 「え、」

倉橋 「俺が昨日言いたかったのはそのことわ」。

薫子 「でも、私は五年前の私じゃない」。

倉橋 「そんなことは俺にはどうでもいい。五年前だって今だって、お蝶はお蝶さ」。

薫子が倉橋をみつめて、

薫子 いい話ね。

国気 そうだろ。受けると思うだろ。

薫子 でも五年よ。今時、そんなの想像出来ないじゃない。

倉橋 やっぱり無理かな。

薫子 無理よ。五年もたつたらどちらも別の人選んでるわよ。そつでしょ。今そんな話が通用すると思つ。

倉橋 俺が言つてもか。

薫子 え、

倉橋 薫子に俺が言つてもか。

薫子 何言つてるの、芝居でしょ。芝居ならやるわよ。ウソツぱちでも何でも役者なんだから、私は。

問

薫子 どうしたのよ。そんなに思いつめたように。

倉橋 この間、教授に言われたんだ。五年、行ってこないかつて。

薫子 どこに。

倉橋 アフリカのケニアの大学。

薫子 アフリカ？

倉橋 俺にはチャンスなんだ。でも薫子は行けないよな。

薫子 私は。アフリカなんて、お父さん、放つとけないもの。

倉橋 お前、今行ったよな。五年も経つたらどちらも違う人を選んでるつて。

薫子 ええ。

倉橋 そつだよな。それが本当だ。俺には薫子の人生を壊す権利はないよ。

薫子 どうしても、行きたいの。

倉橋 ああ、俺にとっては一生のチャンスなんだ。

薫子。

倉橋 でも、これは芝居の世界じゃないんだ。江戸時代の話じゃないんだ。

薫子。

倉橋 悪かったな。俺、薫子が好きだったよ。大学出たら結婚申し込もうと思つていたんだ。でも、五年も待つてくれなんて言えないもんな。

倉橋が薫子に握手の手を出す。その手を握る薫子。しばらくして手を離して後ろを向き倉橋が部屋を去ろうとする。すると、

薫子 待つてる。

倉橋 え！、

薫子 私ついていけないけど、あなたがそれでいいなら、五年間待つてる。

倉橋 薫子。

薫子 約束する。きつと約束する。あなたが帰ってくるまで私一人で待つてるわ。

静かに明かりがおちる。

(幕)